

あしたのために、
知恵と意思を集めました。

■ 肱川水系河川整備基本方針 ～平成15年10月2日策定～

■ 肱川水系河川整備基本方針について

● 洪水等による災害の発生防止

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
肱川	大洲	6,300	1,600	4,700

● 流水の正常な機能の維持

大洲地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量は、冬季以外は概ね6.5m³/sとし、冬季は概ね5.5m³/sとしています。

■ 肱川水系河川整備計画(変更) ～令和4年6月22日変更の概要～

■ 変更の経緯

肱川では令和元年12月に平成30年7月豪雨による洪水により河川整備計画変更を行ってから、2年が経ち、事業進捗とともに検討が進んだ「流域治水への転換」「河川堤防の漏水などによる既設堤防の補強対策」「山鳥坂ダム建設」「野村ダム改良」等の変更を行いました。

■ 変更の主なポイント

● 流域治水

気候変動の影響や社会状況の変化などをふまえ、あらゆる関係者が、協働して流域全体で行う、流域治水への転換を推進します。

● 堤防の浸透対策

堤防の詳細点検を行い、対策が必要な箇所については、環境に配慮しながら、必要な浸透対策を実施します。

● 山鳥坂ダム建設事業推進

洪水流量の低減、流水の正常な機能の維持のため、山鳥坂ダムを建設します。詳細な地質調査を踏まえ、ダムサイトを上流側に変更します。

● 野村ダム改良事業を推進

野村ダムの洪水調節容量に、事前放流で確保した洪水調節可能容量を加えた761万m³を有効活用するため、野村ダム改良事業を推進します。

■ 河川整備計画の対象区間及び対象期間

対象区間については、以下のとおりです。また、対象期間は、今後概ね30年の河川整備の計画を示しています。

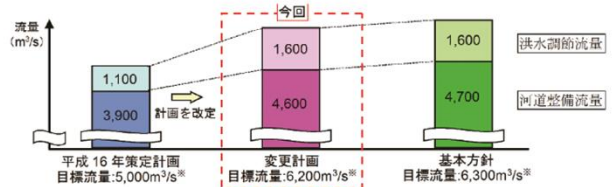


- ↑ 直轄管理区間
- 計画対象区間
- 既設ダム
- 計画ダム

■ 河川整備の基本理念

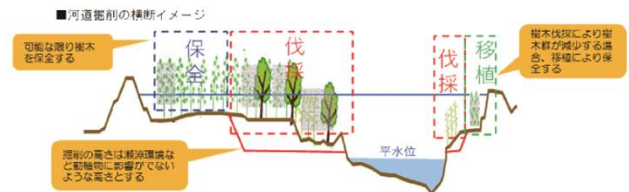
以下の3点を河川整備の基本理念とし、治水、利水、環境の調和を図りながら河川整備に関わる施策を総合的に展開します。

- 安全安心の確保
戦後最大洪水と同規模の洪水を安全に流下させる
- 清流の復活
正常流量の確保と自然な流れの回復
- 地域の風土と調和を図った河川整備
河川景観や河川空間の利用に関する整備と保全、動植物の生態・生育・繁殖環境の保全等



● 河道掘削

堤防の整備、河道掘削等により、流下能力を向上させます。河道整備にあたっては、環境に配慮しながら工事を実施いたします。



● 堤防の浸透対策

R元年から堤防漏水対策必要箇所の調査方法として、牽引式電気探査など新たな技術も活用し、学識者の意見も取り入れながら、より治水安全度を高めていく取組を実施。対策の必要がある区間については、工法を検討し、適切に対策工事を実施していきます。

パイピング発生箇所 (H30.7月豪雨)
中島箇所の堤防漏水状況

